

【実践報告】

公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐 伯 育 郎

1 平成26年度・教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

教員採用試験に対する養成側の対応は、大学によって様々である。担当者が業者であるか、大学教員であるか、授業内か、授業外か、有料か、無料かなど、複数の要素から分類できる。大学の代表的な対応には、以下の方式が考えられる¹⁾。

- ①外部委託方式Ⅰ：学外での実施，業者，有料
- ②外部委託方式Ⅱ：学内での実施，業者，有料
- ③自前方式Ⅰ：学内・教員・正規の授業時間内・（無料）……教員採用試験を意識した授業展開，場合によっては，正規の授業時間に教員採用試験の内容を取り入れる。
- ④自前方式Ⅱ：教員・正規の授業時間外・（有料・無料）……授業時間外に，学生に実態に即した側面支援を行う。
- ⑤一切関与しない方式：教員の関与がないため，学生の取組が多様になる。

本学では，学生からの要望に応える形で教員採用試験対策チャレンジセミナーを行っている。上記の④自前方式Ⅱ（無料）であり，学生主体で運営を行っている点，授業外・長期休業中を利用して教員が無償で支援している点，卒業生が自主的に参加する点などに特長がある。正規の授業ではなく，自由参加型のセミナーであり，あくまでも学生の主体的な学びを支援するものである。今年度は，次のような取組を行った。

1.1 春期休業中セミナー

3年次後期の教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校・本実習）終了後，本学での学びを再開した学生たちは，教員採用試験に向けた取組にも熱が入ってくる。ゼミ単位や受験自治体単位などで学生による勉強会が本格化する。

春期休業中には，教員採用試験対策チャレンジセミナーが実施される（表1）。3年生のセミナー代表が事前に開講希望講座を検討し，教員への依頼・調整を行い，時間割を組む（表2）。昨年度の14講座から5講座増え，全19講座が開講された。日程も2日増えた。例年，初等教育学科の教員が担当の中心であるが，人間福祉学科の教員による講座も開催された。初回ではスタート会で参加意識・学習意欲を高め，最終回では反省会を行うことで取組を総括・省察した。

【表1：春期休業中セミナー一覧】

内容	担当	詳細
国語	橋村	学習指導要領の解説，過去問の解説
算数	今崎	学習指導要領の復習，指導計画作成のポイント
体育	川西	学習指導要領のポイント
音楽	新宅	学習指導要領の解説，弾き歌い，声楽，リコーダー，ピアノ

図画工作	佐伯	デッサンの実技・ポイント、演習
道徳	村上	学習指導案作成の方法
総合	高橋	学習指導要領のポイント
特別活動	高橋	学習指導要領のポイント
総則	今崎	学習指導要領のポイント
教育法規	杉山	教育法規に関する穴埋めの問題の演習、解説
教育史	徳本	教育史についての講義
教育心理学	田頭	様々な自治体の問題の演習、解説
特別支援教育	木村・李木	特別支援教育についての講義
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の演習、ポイント
グループワーク	岡・森	グループワークのポイント
自己PR・願書の書き方	黒木	願書の書き方や自己PRの内容など
面接	今崎	面接のポイント、個人面接・集団面接の演習
答申・通知等	今崎	答申・通知の解説、ポイント
論述形式問題書き方	森下	論述形式問題の演習、ポイント

【表2：春期休業中セミナー時間割】

	2/20 (木)	2/21 (金)	2/25 (火)	2/26 (水)	2/27 (木)	2/28 (金)	3/3 (月)	3/5 (水)	3/6 (木)
1 コマ	スタート会	体育 指導要領解説 川西	特別活動 高橋	集団討論 徳本・佐伯	特別支援教育 木村・李木	集団討論 徳本・佐伯	自己PR・ 願書の書き方 黒木	教育法規 杉山	道徳指導案 作成 村上
2 コマ	グループ ワーク 岡・森	総則 指導要領解説 今崎	国語 指導要領解説 橋村	算数 指導案作成 今崎	特別支援教育 木村・李木	グループ ワーク 岡・森	答申・通知等 今崎	面接について 今崎	反省会
3 コマ	音楽 指導要領解説 新宅	図工・デッサン 佐伯	集団討論 徳本・佐伯	論述形式問題 書き方 森下	特別支援教育 木村・李木	音楽・ リコーダー 新宅	音楽ピアノ 新宅	音楽弾き歌い 新宅	
4 コマ		総合 指導要領解説 高橋	教育史 徳本	教育心理学 田頭	特別支援教育 木村・李木				

筆者が担当したセミナーの例を挙げ、参加状況等について具体的に述べる。図画工作専門の筆者が担当した2月21日の図工・デッサンのチャレンジセミナー（春期）では46人の出席があり（昨年度は38人）、実技問題の演習（人物画）とポイント解説を行った。学生の感想を抜粋して紹介する。

- ・絵を描くことに対して苦手意識を持っていたけれど、ポイントを教えてもらって少し気が楽になった。がんばって上達したい。
- ・今日デッサンを描いて、難しいと思った。私は、教師がデッサンを少しでも描けることで、子どもたちに褒めることもできるし、助言することができると思う。
- ・1人ひとりの絵を見ると、表現の仕方や工夫の仕方に個性が出ていて、いいところは真似したいと思いました。今日アドバイス頂いたことを意識して次も描きたいです。

徳本達夫教授と筆者が担当した集団討論セミナーは、3コマにわたり6回実施した（昨年度は2コマ・4回）。1・2回目は54人（昨年度は47人）、3・4回目は35人（昨年度は16人）、5・6回目は36人の参加であっ

た。5～7人のグループで討論を行った。教員が設定した討論のテーマから任意に選択させ、討論をする学生とそれを評価する学生とに分かれて実施し、その後交代した。受験側、採用側の両方を体験することによって、学生自身に評価の観点を考えさせた。5回目は、徳本教授と筆者が学生の中に入り、進め方の示範を目的として討論を行った。

【写真1：スタート会】



【写真2：春期休業中セミナーでの「図工・デッサン」の様子】



【写真3・4：春期休業中セミナーでの「集団討論」の様子】



セミナー代表の学生がまとめた春期セミナーの成果には、次のものがあった。

- ・学生・教員間での連絡・連携がしっかり行われており、事前のアンケートによって希望する講座を受講・実施することができた。
 - ・セミナーの声かけがあり、団結力が生まれ、雰囲気になった。
 - ・学習への見通しが持て、教員採用試験に向けての意欲が高まった。
- 課題としては、次のものが挙げられた。
- ・予習・復習が徹底できていなかった。
 - ・1つの講座の時間が短く、進度が早かった。
 - ・一番受験者の多い広島県中心の資料が多かったため、他の自治体の情報も欲しかった。

1.2 前期セミナー

4年次前期、授業や卒業研究などと並行して教員採用試験対策チャレンジセミナーも行われる。セミナー代表が事前調査を行い、全員が参加できるよう時間割を組む。表3・4以外では、国語系教員（岡・黒木・橋村・森・森下）やゼミ担当教員による小論文・自己PR文の添削指導等、時間割にない支援も随時行われている。

筆者が担当したセミナーの例を挙げ、参加状況等について述べる。筆者が担当した図画工作セミナー（前期）は、5月2日から7月11日までの8コマ実施した。11回実施した昨年度より、3回少なかったが、

今年度の方が出席率は高かった。昨年度の平均22.5人（最多42人，最少11人）に対して，今年度は平均25.8人（最多46人，最少14人）であった。内容的には，学習指導要領の問題演習などの理論編と，デッサンなどの実技編とを交互に実施した。図工セミナー以外では，デッサンの添削指導（広島県対策）も行った。6月3日から7月15日までの間に20回（33回）実施した。図画工作セミナーに対する学生の感想を抜粋して紹介する。

- ・私は，絵を描くのがとても苦手です。それでも，先生がポイントを指導してくださるので，自分なりに少しずつ改善されてきたように思います。理論では，プリントを作成してくださっていたので，自分が勉強できていなかったことが，とても理解しやすい形で頭の中に入ってきました。
- ・デッサンはいろいろな作品を見ることができたし，たくさん描くことができ，課題も見付かったのでよかったです。理論についても，いずれ教える立場に立った時必要なことを改めてたくさん学ぶことができました。
- ・デッサンは，人の作品を見て「次はこうしてみよう」と改善していくことで，回を重ねる度に上達しているような気がして，とても役に立ちました。理論は，愛媛県も受験する私にとってはとても役立つものでした。

徳本教授と筆者が担当した集団討論セミナーは，4月21日から7月14日までの13コマ実施した。集団討論の試験を課す自治体が以前より減ったこともあり，平均14人の参加であったが，毎週のように熱心に参加した学生も見られた。集団討論セミナーの実際，成果と課題については別途報告・考察した²⁾。

【表3：前期セミナー一覧】

内容	担当	詳細
グループワーク	岡・森	自作問題の演習，アドバイス
図画工作	佐伯	図工の理論問題の演習，デッサンの実技・ポイント
場面指導	村上	場面指導の演習・ポイント
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の実技，ポイント
体育実技	川西・体育専修学生	実技，ポイント
理科演習	高橋	練習問題，解説
小論文	森下	小論文の演習，添削

【表4：前期セミナー時間割】

	月	火	水	木	金
1 コマ			体育実技 川西		
2 コマ		グループワーク 岡・森	場面指導 村上		
3 コマ					
4 コマ		理科 高橋			図画工作 佐伯
5 コマ	集団討論 佐伯・徳本				

1.3 二次試験対策セミナー

夏期休業に入ると、二次試験対策セミナーを本格的に開始する。例年、一次試験の結果が出ないうちから、二次対策（三次対策）を開始している。二次対策の内容は、模擬授業、面接練習、集団討論、音楽実技、体育実技等である。事前にセミナー代表が教員のところへ出向き、模擬授業と面接指導の担当時間を決める。セミナー代表が表を作成し、希望する時間帯に学生が各自名前を記入する。1コマにつき4人以上の学生が参加する。表5のように、複数の教室を使用して模擬授業と面接指導を同時展開している。この方法は、平成24年度から取っているものである。会場は、262、421、422、431の4教室を主に使用している。

二次対策では、卒業生も参加し、4年生とともに模擬授業などを行う。現役合格できなかった卒業生は4年生とともに学ぶために、既に採用されている卒業生は後輩の指導のために自主的に本学を訪れる。例年、4年生と卒業生、教員が互いに刺激し合い、学びを深めている。4コマ後にも、面接指導や模擬授業の練習等は行われている。少数ではあるが、他学科の学生もセミナーに参加することもあり、お互いに刺激となっている。表5は広島県対策を主としたものであり、表に含まれない支援も行われている。8月20日以降は土砂災害の復旧作業と並行する形で、9月中旬にかけて島根県・大分県対策を中心にセミナーは継続した。

今年度の模擬授業において、筆者が指導を担当したのは延べ69人（昨年度は64人）の学生であった。6月3日の大分県対策を皮切りに、8月28日の島根県対策まで二次対策・模擬授業が続いた。10月16日から11月10日までは、臨時的任用教諭採用試験・模擬授業を担当した。

筆者は、6月23日から8月25日まで延べ51人の二次対策・面接指導を行った。9月10日から始まった幼児教育コースの学生に対する面接指導も含めると、筆者が担当した学生は11月27日までで延べ81人（昨年度は89人）となった。これはあくまでも筆者の例であり、本学、とりわけ初等教育学科の教員は学生に対する指導・支援に授業外での多くの時間を割いている。

【表5：二次試験対策セミナー一覧】

	8月6日（水）				8月8日（金）				8月11日（月）				8月12日（火）				8月13日（火）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	森下				高橋		佐伯	川西	牧	田頭	岡	今崎	岡	田頭	佐伯	今崎	佐伯	今崎	岡	
2					橋村		佐伯	川西	牧	田頭	岡	今崎	岡	田頭	佐伯	今崎	佐伯	今崎	岡	
3					体育実技				田頭	橋村	岡	今崎	岡	今崎	佐伯	徳本	佐伯	橋村	岡	
4					森		村上	佐伯	田頭		岡	今崎	岡	森	佐伯	徳本				

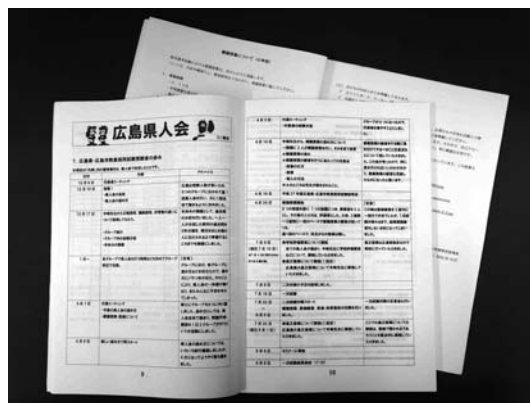
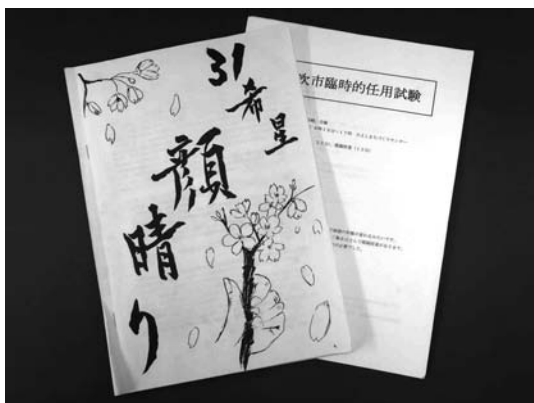
	8月14日（木）				8月15日（金）				8月18日（月）				8月19日（火）				8月20日（水）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	岡	森下	今崎		佐伯	森下	岡		村上		佐伯	川西	徳本	今崎	村上	佐伯	田頭		徳本	川西
2	岡	森下	今崎		佐伯	森下	岡		村上		佐伯	川西	徳本	今崎	村上	佐伯	田頭	川西		
3	岡	橋村	今崎		佐伯	橋村	岡		今崎	体育実技				徳本	今崎	村上	佐伯			
4									今崎				高橋							

2「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

「顔晴り」とは、写真5・6のような教員採用試験等報告書のことである。従来通り学生が主体の取組ではあるが、教職センターも関与する形となり、全学的な実践となりつつある。

【写真5・6：教員採用試験等報告書「顔晴り」】



今年度の報告書は126頁で、チャレンジセミナー、自治体ごとに行われた学習会、小学校教員採用試験、一般企業採用試験、幼稚園と非常に幅広い内容となっている。各試験に向けた学習方法、採用試験の実際、後輩へのアドバイスが詳細に記述されている。卒業生が受験した小学校教員採用試験や栄養教諭採用試験についても掲載されている。4年生が受験した臨時的任用教諭採用試験については、後日8頁の冊子が別途作成され、配付された。

この報告書は、学年を問わず希望する学生に配付しており、教員採用試験等の受験を考えている学生にとって貴重な資料となっている。教員にとっても、指導・支援する上で非常に役立つ資料である。

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

「顔晴りの会」とは、教員採用試験等報告会のことである。今年度は、平成26年11月28日（金）5コマ目に641教室で実施された。写真7の全体会、写真8の分科会の2部構成で行われた。

【写真7：「顔晴りの会」全体会の様子】



【写真8：「顔晴りの会」分科会の様子】



全体会では、教職センター長から今年度の取組についての講評が述べられた後、小学校教員採用試験を受験した学生3人、一般就職をした学生1人からの報告が行われた。

分科会では、広島、岡山、島根、愛媛、九州、横浜、一般就職の7ブースに分かれて、教員採用試験報告書に沿って自治体の傾向に沿った学習方法等の報告、質疑応答が熱心に行われた。参加者は1

年生から4年生と幅広く、学生の関心の高さが伺えた。4年生チューターとセミナー代表者の挨拶が終わった後も、学生たちは会場に残り、遅くまで話し合っていた。

3 平成26年度実施公立小・中学校等教員採用試験の結果

平成26年度に実施された公立小・中学校等教員採用試験の結果は、表6の通りであった。

【表6：公立小・中学校等教員採用試験の結果(判明分)】

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		栄養教諭・ 学校栄養職員		計
	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	
島根県	2	6	0	1	0	0	0	0	0	0	9
岡山県・市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
広島県・市	33	15	0	0	0	0	0	0	0	2	50
福岡県・市	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
北九州市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大分県	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
長崎県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
熊本県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
鹿児島県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
沖縄県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	38	29	0	1	0	0	0	0	0	2	70

4 成果と課題

平成26年度は、初等教育学科教員を中心に大学教員全体で支援する体制を取った。教員採用試験対策チャレンジセミナーの講座も増え、二次対策に参加する教員数も昨年度よりも増えた。学生主体による運営を維持しながらも、教員による支援も手厚くなり、取組は年々充実してきている。学生自身も、セミナー代表を中心として、学び合う姿勢、高め合う雰囲気作りができていた³⁾。以上の取組によって、今年度の結果につながったものと考えられる。

課題としては、4年生のセミナー代表が動き出すのが例年より遅くなった点が挙げられる。しかし、セミナー代表の学生はその反省を受けて、前期7月末の教育実習Ⅰ最終講において、初等教育学科児童教育コース3年生に対して写真10のような資料を用意し、セミナー開始を早くするよう呼び掛けを自主的に行った。下級生に対する配慮も怠らない学生たちであった。「顔晴りの会」の日程は原案通りの開催となったが、結論に至るまで二転三転したので、下学年、とりわけ3年生の日程を優先して設定する必要があるだろう。

【写真9：初等教育学科児童教育コース4年生】



【写真10：3年生に配付した資料】



教職センターの課題としては、教員の支援体制が挙げられる。初等教育学科の教員を中心に学生を支援する体制は整ってはきたが、未だ一部教員に頼っていることも事実である。教員採用試験対策に向けた取組を今後さらに充実させ、大学全体で学生を支援していくような体制づくりをさらに進めていく必要がある。

今後も、学生の主体的な学びを大切にしたい取組となるよう、改善に努めていきたい。

参考・引用文献

- ・岡利道 他編『初等教育学入門』広島文教女子大学 初等教育学科 2009年
- ・今崎浩・佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2014年第2号』広島文教女子大学教職センター、2014年所収）
- ・『顔晴り』広島文教女子大学初等教育学科 2014年
- ・苫野一徳『教育の力』講談社 2014年

註

- 1) 徳本達夫・佐伯育郎「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅱ）」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2015年第3号』広島文教女子大学教職センター、2015年所収）徳本・佐伯は、教員採用試験に対する養成側の対応と学生の姿勢などを4つに分類した。その前段階として、教員採用試験に対する養成側の対応例を①外部委託方式Ⅰ、②外部委託方式Ⅱ、③自前方式Ⅰ、④自前方式Ⅱ、⑤一切関与しない方式、の5方式に分類した。②外部委託方式Ⅱとしては、専修大学の例がある。専修大学では、エクステンションセンター事務課が主催となって学外業者の講師による「教員採用試験対策講座」を学内で実施している。この講座は有料である。（http://www.senshu-u.ac.jp/support/extension_center/extracurricular_info/7841/007844.html 専修大学ホームページ 平成27年1月25日参照）広島大学が学部生・院生を対象として行っている「教員採用試験対策講座」、日本女子大学教職教育開発センターが行っている「教員採用試験対策講座」等も、②外部委託方式Ⅱに該当する。これらの講座も有料である。広島大学の場合、基本講座として11科目62コマ（模擬試験6回、人物試験対策も含む）で124,648円（テキスト代は別途33,352円必要）を学生から徴収している。（<http://www.hucoop.jp/career/teacher/index.html> 広島大学ホームページ、<http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/kyoshoku/jyuhou.html> 日本女子大学教職教育開発センターホームページ 平成27年1月25日参照）
- 2) 佐伯育郎、徳本達夫「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅱ）～本学における取組の実際～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2015年第3号』広島文教女子大学教職センター、2015年所収）
- 3) 苫野一徳『教育の力』講談社 2014年。苫野は、「ちなみに、よく『競争』が学力の向上策として取り沙汰されますが、実は教育学や心理学等のさまざまな調査研究において、その通念は多くの場合、かなり間違っていることが明らかにされています（コーン1994など参照）。むしろ、学力の向上だけでなく、たとえば芸術的創造や会社の営業といった場面においてさえ、『競争』より『協力』『協同』の方が、高い生産性を生むという調査結果が多く報告されているのです。個人間の競争がインセンティブになるのは、成績上位のそのまたごく一部、あるいはきわめて強い“ハングリー精神”を持った、限られた範囲の子どもたちだけにすぎません。それ以外の多くの子どもたちは、たとえば競争に負け続けることで、勉強への意欲を失うこともしばしばです。成績上位の子どもたちでさえ、絶えず競争のプレッシャーにさらされていけば、その本領をいつか発揮できなくなってしまうかもしれません。その意味でも、すべての子どもたちの質の高い学びを保障するためには、総じて見れば、競争より協同の方がはるかに効果的であるということが出来るのです。」（108ページ）と述べている。このことは、本学の教員採用試験に対する取組にも該当すると考える。